

【件名：【注意喚起】アル・シャバーブによるテロ攻撃】

平素より在ケニア日本国大使館領事警備班の業務に、ご理解、ご協力いただき誠に有り難うございます。

さて、在留邦人の皆様におかれましては、ご承知のとおり、現在、ケニアはラマダン期間中であり、右期間中に、隣国ソマリアを拠点とするイスラム教過激派組織アル・シャバーブ (AS) が、ケニアにおいてテロ攻撃予告を出すなど、引き続き、テロの脅威にさらされながらの生活を余儀なくされています。これを受け、大統領、警察庁長官は、ケニア北東部の都市に夜間外出禁止令を発出するとともに、治安機関に警戒の強化を図る指示を出すなど、AS からのテロ攻撃に備えています。しかしながら、本日 7 日、ケニア北東部マンデラ郡において、AS とみられる戦闘員が採石場作業員に対して銃撃等を行うテロ攻撃が発生しました。

在留邦人の皆様は、テロへの警戒を常に意識して生活をして頂くとともに、特に、ラマダン期間中におけるご自身の行動には十分に注意をお願いします。また、米大統領が 7 月下旬にケニアを訪問する予定となっていることから、米大統領一行に対するテロ攻撃又はその期間中に国内でテロ攻撃を実行する可能性も否定できませんので、ラマダンが明ける予定の 18 日以降においてもテロに対する注意が必要です。

【普段の心構え】

- ケニアは AS の報復攻撃対象国であり、テロの脅威は日常生活空間内に潜んでいるとの認識を持ちましょう。
- 自らが外国人であり、テロ攻撃の標的であるとの認識を持ちましょう。
- セキュリティの十分なホテルの利用を利用し、フロント付近での長居、フロント近くのレストランの利用は控えるようにしましょう。
- 欧米系外国人客の多いレストランなど利用時は十分過ぎる警戒をするとともに、1 階に店舗を構え且つ、オープンテラスになっているようなレストランの利用は控えましょう。
- 欧米系外国人客の多いディスコ、バー、ナイトクラブには行かないようにしましょう。
- 周囲の状況から、不審な人物（著しく厚着、覆面やフード姿、大きな手荷物、リュック等）には注意し、発見時はその場から離れるなどの行動を取りましょう。
- 買い物に行く際には、時間と場所を選び、ルートを毎回変えるようにしましょう。

【テロに遭遇した場合の基本的行動】

- 爆発音・銃撃音を聞いたら直ちに伏せる、這うように移動して、柱・壁・周辺 店舗などに身を隠す、できる限り姿勢を低くし現場から速やかに退避をしましょう。
- テロ現場付近に居合わせたら、直ちに退避し、決して現場に近付かない（第 2 波攻撃のおそれ）。
- テロ現場から離れていても十分警戒し、可能な限り自宅など安全な空間に避難する（同時多発テロのおそれ）。
- テロ攻撃に遭遇した旨、可能な限り親族、関係者及び大使館等に連絡を入れ、自身の安否を知らせるようにしましょう。

平成 27 年 7 月 7 日 (火)
在ケニア日本国大使館 領事警備班